

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0174100511		
法人名	有限会社ヤマギシ企画		
事業所名	グループホーム入江 1階		
所在地	釧路市入江町8-29		
自己評価作成日	平成23年2月18日	評価結果市町村受理日	平成23年4月6日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	http://system.kaigojoho-hokkaido.jp/kaigosjp/infomationPublic.do?JCD=0174100511&SCD=320
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 ニッポン・アクティブライフ・クラブ
所在地	江別市大麻新町14-9 ナルク江別内
訪問調査日	平成23年3月5日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

昨年度外部評価後に皆で考え、理念を改正しました。それが一番我々が大切にしている事です。

◎ 私達は利用者さんの尊厳を守り、命令かつ支配的な言葉を使わず、常に穏やかで、和やかな会話と態度で接します。

◎ 私達は利用者さんの残存能力や病状を適格に判断して自立支援いたします。

◎ 私達は利用者さんが安全、快適、笑顔で過ごせる環境作りに職員一同支援いたします。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

当事業所はバス路線愛国江南通り沿いに面し車の往来も多く、産業地域に位置している。全職員で話し合い独自の理念を作り上げ、日々のケアに活かしている。運営推進会議は年6回行なわれ、近所の高齢者の情報や意見をj得ている。町内会のゴミ拾いや古紙回収に協力し、小学校を訪れてカルタで遊んだり、運動会の見学にjかけ、グループホーム(3箇所)の夏祭りには沢山の地域の方が訪れ地域交流を深めている。又紙芝居、日舞などのボランティアの訪問もある。ドライブ、日帰り温泉、花見、焼肉パーティ、郊外の公園に行くなどj楽しんでjる。職員は意見、要望が言い易くやりがいに繋がっている。資格を目指しケアマネージャーに2人合格し職員の質の向上が図られている。退職する職員も少なく利用者の安心に繋がっている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目№1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目: 23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができてjる (参考項目: 9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目: 18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目: 2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目: 38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目: 4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目: 36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、活き活きと働いている (参考項目: 11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目: 49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目: 30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目: 28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	昨年外部評価の結果を鑑みて、理念を職員全員で作りました。全員が暗記するように月に一度、唱和しています。理念を共有して日々職員は努力していると思います。	理念を全職員で話し合い、作り上げた。理念を共有し、日々の業務で実践に繋げるように努めている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	町内会、小学校、近所の店、喫茶店などと交流を持っています。もっと増やしていきたい。町内会とお互いに行事の参加をしたり、古紙回収に協力したりしています。	町内会のゴミ拾いに協力し小学校の学芸会と運動会は利用者と一緒に参加し、児童も楽器演奏に来ています。利用者と近所の喫茶店にも行っている。事業所の夏祭りに多くの地域住民が参加している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議や、町内会の集まりなどで、紹介しています。利用者とスタッフが近所を散歩し、挨拶や会話を交わし、交流を深めているが、まだ不足しています。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	毎年、外部評価が確定した後の推進会議では詳しく、皆さんに説明しており、サービス向上に寄与していると思います。	定期的に2ヶ月に1度開催している。事業所の運営状況や行事、利用者の生活状況、自己評価、外部評価そして防災訓練の協力依頼を話し合い、報告をしている。意見があればサービス向上に活かしている。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	GH協の役員もしており、連絡を密に行なう環境にあります。	ホーム長が市の担当者と話し合う機会が多く、連絡を密に取りながら協力関係を築いている。得られた情報は職員に報告し共有している。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	その種の研修にも毎年参加しており、職員の理解も深い。夜間のみ玄関の施錠はしていません。釧路総合振興局には非拘束宣言を出しております。	研修会に参加し、全職員で拘束の無いケアに取り組み理解をしている。玄関施錠も夜間のみとなっている。散歩の好きな利用者にはホーム長と一緒に出かけ、近所の喫茶店に行っている。	

グループホーム入江1階

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	研修参加、会議での話し合いなどで、常に職員全体の意識は高い。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	ホーム(会社)が釧路で初めて後見人になるつもりで、その利用者に入所してもらいました。家裁でもはっきり分からず、結局社会福祉士が後見人になりました。そういう事を通して職員の関心も深いです。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	トラブル防止には契約時が一番大切なので、時間をとって説明し、理解していただいています。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族会で話す機会を設けておりますが、なかなか気軽に話せる感じではないかも知れません。最近ホームへの要望、気付いた点など分かるように、目安箱を設置しました。	家族会や運営推進会議で意見や希望を言える環境にある。又通院は家族が行っているのので家族は気軽に来訪し要望や意見があれば話し合い、会議にかけた時は家族に報告している。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	年に1度職員と面接をして、普段話づらい事でも話せるような機会をもっています。	職員は会議の中で自分の考えを言える。個別面談も行っている。理念を作るときに職員の意見を取り入れている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	キャリアパスを作成し、職員全員が理解しています。左記の質問事項の不満でやめる人は殆ど、おりません。殆どの人が恵まれた職場環境だと思っています。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修参加や資格取得には会社一同で応援しています。非常勤社員に対しても、研修時間は勤務時間とみなし、報酬を支払っております。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	道東ブロックでは、研修が10回以上あり、顔なじみになっている職員も多い。今年は各ホーム参加のレクリエーションもする予定です。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	環境が変わる訳ですから、本人の不安もひととおりではありません。本人の思いを自分の身となって考えて、対応するようにしています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	本人の要望、思いと家族の要望が異なる事もあり、慎重にアセスメントして、家族と納得行くまで話合うようにしています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	他のサービスは全額個人負担ですが、家族には紹介しています。職員で対応の考えが違う事がありますが、カンファレンスなどで真摯に話し合い、家族にも理解を貰っております。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	その人の力の発揮に向けた支援と馴染みの関係作りができていると思う。ホームは生活の場で在ることを忘れず運営していきたい。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族と接する機会が多く、常に本人との関係が良好に保てるように支援しています。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	入所前の美容室へ行ける様支援していましたが、最近では認知症が進み、あまりわからない状態なので、ホームで髪を切っています。要望があれば出来る限り支援いたします。元の住んでいた家や食堂にも同行することがあります。	出張理美容師と馴染みになっている。知人も訪問している。	家族と疎遠になっていたり友人がいない利用者の親族に対して、事業所から積極的に来訪を促すなど、橋渡しの役割をされることを期待したい。
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者が同士の関わり合い、支え合えるような支援に努めている	気の合わない者同士が対立しないように注意しながら、お互いに助けあうような支援をしている。ゲームやカラオケなど交流の場を作り、最大限支援している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所後の利用者は特養に行った一人を除き、全員、急性期病院→療養型病院→死亡の形の為、死亡後は関係が希薄になっております。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人の言葉を記録し、更にアセスメントを行なう事で希望や意向を把握しています。	日常の会話や何気ない行動を記録し、更に会議の中で把握し家族の意見も聞いて本人本位に検討している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所の際の面談、入所前のサービス事業者や家族、知人から、詳しく情報を集めています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	いつもの表情や態度と比較して注意し、センター方式を活用し、アセスメントしています。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	計画作成担当者はケアプランを作成し、そのプランはスタッフ全員が目を通し意見を取り入れられている。	日常の関りの中から得た情報や家族からの要望、意見等を取り入れ職員会議に諮り、介護計画を作成している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	毎日の生活記録をスタッフ全員が記入し、全員が目を通す。日々の申し送り、会議の際の話し合いに活かしています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人の全額負担でデイサービスに行っている方がおります。今後はボランティアなどを有効に活用したいと思っています。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	一部の人は活用しています。地域へはこちらが待っているばかりでなく、こちらから積極的に働きかけていきたい。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	内科、皮膚科、歯科の往診、訪問診療など適切な医療を受けていると思います。	かかりつけ医との連携を密にし、通院は、家族が対応しているが、家族の都合により事業所が支援している。訪問診療を受けるときは診療記録をつけ、家族に報告をしている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	毎日健康管理記録をつけ、訪問看護師に見せ、何か変わったことがあれば相談しています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	各病院の相談員とは入退院の時ばかりでなく、グループホーム空室状況などでお互いに情報交換をしています。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所で行えることを十分に説明しながら方針を共有し、地域関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	主治医、家族と終末期に向けた対応について話し合いを行ない利用者さんをチームで支えています。	ターミナル指針を作成し、家族に同意を貰っている。早い段階から家族、医療関係者、職員と話し合い、情報を共有し事業所として支えていく体制は出来ている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	救急救命法や心肺蘇生術など研修を受け、他職員にも照会しています。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	町内会の人も参加して毎年避難訓練を行なっています。自動火災連絡装置電話にはホーム近所の人が4人登録されています。	年2回町内会の人も参加して避難訓練を行っている。地域住民と連携体制を取り、自動火災連絡装置電話に地域住民が4名登録されている。防災袋も設置されている。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	理念に沿った対応を心掛けています。最も大切にしている事です。	トイレ誘導時は声を小さくし、カーテンで目隠しをする等プライバシーに配慮し、対応時の言葉遣いは、職員同士で配慮している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	意思表示出来る方には本人がどう過ごしたいか、希望を聞いています。意思表示できない方にも、観察類推しながら、出来る限り支援しています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	安全などの観点から、仕事を優先する事もありますが、起床時間、食事の遅い方には個別に対応しておりその人の思いを大切にしています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	本人の希望する衣類を用意しています。男性には髭剃りに支援しています。		

グループホーム入江1階

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	準備はモヤシの髭取りぐらいだが、可能な限り行なっています。ADLが落ちてきていますので体調を見ながら、お手伝いして貰っています。	利用者は楽しく会話をしながら食事をしている。状況に応じて刻み食やお粥にしている。季節行事食、バイキング等を楽しみ、馴染みのラーメン屋にも出かけている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	殆どの利用者が常食を摂取していますが、量は個別に調節しています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	歯科衛生士さんの口腔ケアを含めて、職員が取り組んでいる。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	尿意が消失している人も、日中は出来るだけトイレで排泄する様に一定の間隔で誘導し、その人の排泄パターンを把握しています。	個々の排泄パターンを把握し、声かけや誘導しながら、出来るだけ日中はトイレでの排泄支援をしている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	朝全員に牛乳を出したり、水分をできるだけ摂って貰えるように心掛け、主治医と相談しながら、下剤の使用方法を検討しています。便を円滑に出す事を助けるのも私達の重要な支援である事を職員は理解しています。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	時間帯は各々で、だいたい決まっていますが、個々に支援をしています。	週2回となっているが希望があれば毎日でも入浴できる。失禁があれば入浴をしている。入浴はコミュニケーションの場となっている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	疲れが見られる時は休息を促し、夜間は室温や光、音などで安眠を妨げないよう注意しています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	職員全員が全ての薬の目的と副作用までは理解できていません。服薬状況を職員が把握しやすいように日誌に記録しています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	日中は個々が思い思いに過ごせる時間を尊重しています。調理や後片付けできる人は役割分担しています。歌番組が好きな人には録画したり、ボール遊びやゲームなどで気分転換をして貰っています。		

グループホーム入江1階

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	年間行事でも数回全員で外出する機会もあり、暖かい時期は散歩や外食に出掛ける機会が多い。希望があれば買物支援もしています。	散歩や買い物等希望があれば何時でも出かけている。事業所行事には全員が参加し、外食や花見、地域の他の事業所の盆踊り等に出かけている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	本人が所持している方は少ないですが、ホームで預かり金を管理し要望に応じて買物を支援しています。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	要望に応じているが、難聴、或は会話の理解が出来なくなってきた方が多く難しい。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	和室や壁面を利用し、季節に応じた飾りつけをしています。玄関の開閉、光の入り方などに気を配り、冬場は特に湿度管理を重点に注意しています。	居間には職員と一緒に作った季節の作品を飾り、利用者の行事写真も貼ってある。音や光にも配慮し冬場は加湿管理を行い健康管理にも気をつけている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ひとり一人が自然に自分が心地良く過ごせる場所があります。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	馴染みのある家具、ADLに合わせたベッドなど家族と話し合って工夫して貰っています。	馴染みの筆筒やテーブル、椅子、テレビを置いている。ベットも身体状況に合わせた電動ベット等、家族と話し合って決めている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	ここは病院ではなく、生活の場なので、本人の残存能力や病状を見究め自立支援するように努めています。		